

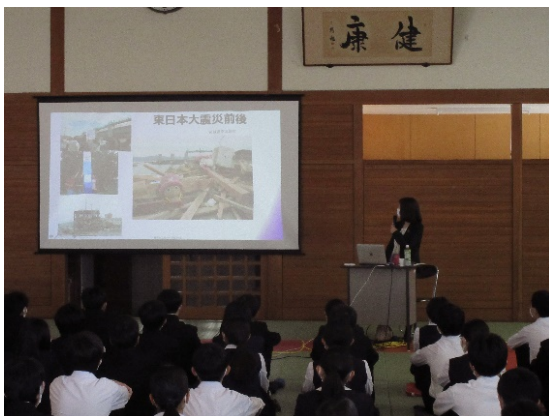
静岡市立城内中学校の公開授業で東日本大震災から学ぶ防災授業を実施しました (2021/11/13)

テーマ：東日本大震災からの学び、防災・減災スタンプラリー
場所：静岡市立城内中学校（静岡県静岡市）

2021年11月13日（土）、静岡市立城内中学校において、東日本大震災以前の沿岸部の状況、直後の被害から復旧、復興の10年を振り返ると同時に、これからの防災の在り方について中学3年生とその保護者と教員が学び、自分たちならどうそなえるかを考える公開授業を実施し、当研究所の保田真理プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が講師を務めました。今回のテーマは「いざという時に行動するためにいまできることー未来を担う中学生としてー」であり、東北大学減災教育「結」プロジェクトの一環として、静岡県危機対策部の協力を得て実施されました。

中学3年生4クラス154名が武道場で講和を聞いたのち、2クラスずつ「防災・減災スタンプラリー」に取り組むグループと、講師と災害と防災・減災について意見交換するグループに分かれて、50分間で両方のメニューを体験しました。その後は教室で、グループごとに、東日本大震災から学んだこと、家族や友人と相談しておいたり共有しておくべきこと、下学年の生徒に伝えていきたいことをディスカッションし、各クラスの代表グループが研究発表を行いました。

受講生徒には「減災」ハンカチが配布され、生徒たちからは「これまで災害を漠然と捉えていましたが、自分たちはもう周囲の人を守ることができる年齢なので、起こりうる事態を家族としっかり想定して、いざという時に困ることのないよう、いまできることをやっていきたい」と感想が述べられました。



講演を聞く生徒



スタンプラリーの様子



教室での振り返り一場面



「減災」ハンカチと生徒